

店頭回収・自主回収の位置づけと支援策について（たたき台）

1 店頭回収・自主回収の課題

事業者の自主的な取り組みは、これまで行政収集を中心としたごみ処理の中で明確に位置づけられていなかった。ごみ収集の在り方を検討するにあたっては、これら店頭回収・自主回収などの様々なリサイクルルートについて、その効果と役割について明確化し、相応の評価を行った上で、その支援策について考える必要がある。

（参考）全国におけるスーパーの店頭回収に関するアンケート内での自由意見（前回資料より抜粋）

- ・リサイクルの持ち込みの基準を明確にして消費者にPRしてもらいたい。
- ・スーパーが店頭回収に協力するのはいいが、せめて行政で袋の負担や回収やしてほしい。
- ・トレイの回収はごみとの選別で、手間が掛かりすぎる。できればしたくない。
- ・店頭回収は事業者のCSRとして取り組んでいるが、やりたくないのが本音。
- ・洗って回収するルールだが、一部の心無いお客様に守られていなく、店舗での回収時の負担が多い。
- ・店頭回収している店への支援の応援策はほしいが、マニュアルや決め事はほしくない。市民、消費者が分別しやすく持ち込みやすい環境づくりに応援してほしい。
- ・従来は行政が中心となってきたが、現状は行政に多く望むことは困難な時代となってきた。スーパーマーケットも出来る限りのことを行い地域社会貢献する使命があると感じている。
- ・協力や補助金など何らかの手伝いが欲しい。
- ・スーパー側の費用負担を軽減してほしい。

2 支援策の検討（例示）

（1）顕彰制度の創設

- ・現行の制度としてある eco パートナーに上乘せする形、または独自に新しい仕組みを新設しての顕彰。ポスターやステッカーにて対象事業者をPR。
- ・ごみ便利帳に対象事業所を一覧表形式で掲載しPR。ごみ便利帳に広告欄を設け、対象事業者に優先的に枠を配布。

（2）事業者への助成

- ・回収を行う事業者について、回収ボックス等の設置費用の全部又は一部の助成、若しくはその現物を支給。
- ・回収に掛かるコスト（消耗品、人件費等）に対する助成。